

学会報告

失敗学会 第2回年次大会

高橋 祐一郎

失敗は、どんな人や組織にもつきものである。失敗を防止し、未然に防いでいくことは、円滑な人間の生産活動や組織運営にとって不可欠の課題である。

誰も失敗を繰り返したいとは思っていない。失敗した者は誰でも、その原因を探り、策を講じ、再発防止に務めようとする。この流れが正しく向けられていれば、失敗は減っていくはずである。誰もがそう信じて行動する。

ところが、繰り返される失敗がある。しかも、その失敗による損失や被害は、過去のそれより増大しているケースが後をたたない。そこでは、過去に起こった失敗の経験や教訓が十分に生かされていないかったということになる。

このような事態に至らないためには、過去の失敗について、その原因や発生の過程を、人文・社会科学から自然科学に至る幅広い視点で捉えて知識化し、失敗を起こしたくない、又は防ごうという人に対して、正しく伝達していくことが必要である。その上で、経済的打撃を起こしたり、人命に関わったりするような事故や災害を未然に防ぐ方策を提供していくことが求められている。

失敗学会は、このような社会の要請に応えるべく、失敗を学問として捉え、学ぶことを目的として、2002年11月27日に設立された。わが国の活動拠点は工学院大学内に置かれている。また、HPは米国事務局で管理され、日本語、英語、中国語ページと管理用データベースが置かれている。インターネットを最大限に活用した運営が行われており、研究会案内、活動報告、データベースなどの学会関連情報は、原則としてHPに掲載され(1)、電子メールによって会員に告知・案内される。

本学会は、設立以来、月間数十名のペースで入会が相次ぎ、2003年11月には会員数千名を突破し、なおも増加中である。また、法人会員の伸びも著しく、設立当初は11社15口であったものが、2004年4月には47社61口と激増している。

このように世間の注目を集めている本学会の第2回年次大会が、2003年12月8日、工学院大学・新宿キャンパスにおいて開催された。

小職は、2003年の9月から本学会に入会したことから、本大会の参加は初めてであった。申し込みをしようとして驚いたのは、参加受付、会員発表の投稿の登録はもちろん、会場の席の位置まで、すべてWeb上から操作できるように仕組みられていたことであった。多数の会員を擁しながら、ここまでインターネットを使いこなした学会に参加することは初めてのことであり、参加前から大きな期待を感じた。

大会のプログラム(2)は、午前の部と午後の部で内容を分けていた。午前の部では、会長あいさつ、副会長による失敗学会の現状説明がなされたのち、科学技術振興機構による「失敗知識データベース整備事業」、経済産業省による「技術経営e-プラットフォーム」について、紹介と関連報告が行われた。

一方、午後の部では、まず、会員による発表が8件行われた。発表時間は、通常の学会のごとく各人一律20分といったことはせず、発表者に希望時間を申請させ、事務局が発表の内容を精査して適切な時間を決めることで、全持ち時間の2時間30分を割り振るというユニークな方法がとられた。

その後、大会の締めとして、失敗学の始祖として著名であり、本学会の会長でもある畑村洋太郎氏による講演「火災・爆発事故に学ぶ-逆演算思考のすすめ」が行われた。講演では、大事故に共通する事象、専門家が持っている暗黙知の伝達の例などに加え、失敗脈略を見つけだす逆演算の思考、最近現場で起こっている「見ない・考えない・歩かない(3ナイ)」の問題、建築材料として使用されている素材が寿命を迎えることにより予想される社会への影響などが紹介された。わずか数十分の時間であったが、格調高く、それでいてこれまで考えもよらなかった視点から繰り出される講演内容に、小職は大変な感銘を受けた。

1 本学会のURL(トップページ)は以下のとおり。

<http://www.shippai.org/>

2 本大会のプログラムは以下のURLに掲載。

<http://www.shippai.org/shippai/html/index.php?name=nenjikai>